

バーバ・ムクターナンダの物語

アハリヤー・ノリス

1979年の秋のある日、バーバが、当時はシュリー・ニッテヤーナンダ・アーシュラムと呼ばれていた現在のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムで、サツァングの間にダルシャンを行っていた時、私は前に進み出て、「バーバ、これは私の顔だ、これは私の手だ、これは私の体だ、と言っているのは誰ですか」と尋ねました。

バーバは「次のインテンシヴであなたの質問に回答しよう」と答えました。

数日後にバーバが行うインテンシヴに、私がどれだけ熱心な気持ちで申し込みをしたか、想像できるでしょう。

インテンシヴの間、私はすべての修行を熱心に行いました。でも、私は心の片隅で、バーバが私の質問に答えてくれるのを待ち続けていました。しかし、彼はそのことには一言も触れませんでした。

そうしているうちに、ある瞑想の時間に、私の体全体はこまが回転するように回り始めました。私は目覚めたクンドリニーが身体的に現れる典型的な例を体験していたのです。それはこの上ない幸福感でした！ これらの身体的な動きが起きているのと同時に、私は体の上方からこれらの動きを見ている自分を認識しました。私の目は瞑想中で閉じていましたが、私は意識の形のない状態から、起こっていたすべてを目撃していました。私はすべてを完全に認識して

いましたが、同時に何もしていませんでした。糸を引いて操っている人は誰もいなかったのです。

インテンシヴの後、私はスーツケースに荷物を入れ、家に帰る準備を始めました。その間も私はまだ、ただ見ている、わかっているという状態にありました、私の手は自然に荷造りをし、私の足はビルを出るために階段を降り、その間ずっと私は身体の上からすべての動きを見ていました。「私」という純粋な意識がただそこにありました。

私はバーバに「これは私の顔だ、これは私の手だ、これは私の体だと言っているのは誰ですか」と尋ねました。バーバは言った通りに、インテンシヴで答えてくれました。彼は「言葉で」答えてはくれませんでした、その体験を与えてくれたのです。

